



大塚山古墳の頂上にて

坂の上り口にある樹林寺は、桓武平氏を継ぐ高望王の子である東国鎮守府将軍・平良文（坂東八平氏の祖）に所縁のある寺院で、亥鼻城を築いた千葉氏の初代・常重の夢枕に浮かんだ祖・良文の愛でていた夕顔観音を祀らせました。良文は歴史書には記述が少なく、甥にあたる平将門とは雲泥の違いがあります。坂を上り切り、平良文終焉の地、阿玉台地区にある「まほろばの里」では阿玉台遺跡から出土した土器類を見ました。隣接する良文貝塚から発掘された「人面土器」（レプリカ）は出色でした。

良文貝塚の一端を見た後、バスは香取街道を走り、佐原地区の観福寺に到着。寺奥にある宝物館で江戸後期から明治初年にかけて展開された廃仏棄釈運動の結果、香取神宮域から廃棄されて製作者や寄贈者名の部分を切断された室町期の架け仏群をじっくりと鑑賞できました。16:30 解散。

北地域巡りにはまだまだ時間が不足で十分な案内ができませんでしたが、参加者からは「満足」の声を届けていただきました。



城山古墳の一基の内部に入る

## 集会報告 1

『さよなら原発』から  
『ワタシのミライ』へ  
平良文男(事務局長 君津支部)

9月18日（祝日）いつもの代々木公園の野外ステージで「ワタシのミライ」集会がありました。前回の「高退教だより」の中にピラを挿入いたしました。いままで「さよなら原発」集会が3月と9月に行われていたのですが、若者も交えてのイベントにしようとして新発足した集会でした。

呼び掛け文には「今まさに猛暑や大規模な災害というかたちで、私たちに襲う気候危機、原発事故や放射性廃棄物の問題も出口が見えません。それは、わたしとあなたで、みんなで声をあげなければ解決しません。音楽ライブや交流、カラフルで楽しいパレードなど、様々なプログラムを通してきっとあなたも、自分が気候危機と関係していること、自分が社会を変える一部となれることを感じられるはずです！（中略）2019年から気候変動解決に向け活動する『Fridays For Future Tokyo』、坂本龍一さんなどが発起人となった『さよなら原発1000万人アクション』が初めてタグを組み、みなさんと一緒に、公正な社会課題解決の大きな第一歩を創ります！」と記されています。

これからもご一緒に参加しましょう。今まで通りの交通費補助（2,000円上限の実費）を予定していることを事前に衆知できなかったことをお詫びいたします。（4面「お知らせ」に補足説明があります）



## 集会報告 2

全国高齢者集会に参加して  
原 良博(常任委員 君津支部)

9月19日（火）、文京シビックホールで2023全国高齢者集会が開催され、全国の退職者連合組織から1,300人の参加者がありました。

オープニングの創作和太鼓の後、主催者代表挨拶に退職者連合会長の人見 一夫氏が「政府に核兵器禁止条約を強く求めていく。戦争に反対し、平和と民主主義を守り軍事拡大に反対していく。超少子高齢化社会が進む中、社会保障制度や高齢者へのサポート事業の改善は必要不可欠である。」と挨拶しました。その後、来賓挨拶、基調報告、講演を行いました。

評論家の寺島実郎氏の講演は、「世界の構造変化と日本の未来」という演題で、多方面にわたる情勢の分析を行なったの報告でした。

寺島氏は、世界GDPにおける日本のシェアは、1994年のピークの18%から2022年では4%に低下している。一人当たりのGDPもアジアで、シンガポール、香港、ブルネイに次いで4位になっている。日本はもはやアジアトップの経済国家ではない。

世界総人口は年々増加するが、日本総人口は2008年がピークの1.28億人で、その後減少し2060年頃には1億人を割る。そして、65歳以上の高齢者は総人口の4割を超える『異次元の高齢化社会』になる。

高齢化社会において自分がどういう時代を生活しているのかを的確に認識することが重要である。『知の再武装』が必要。それがジェロントロジー（高齢化社会学）、と話された。

やや難解な内容であったが、世界・日本の情勢分析を的確に捉えられていると思いました。講演の後、集会アピールを採択し、人見会長の「団結 がんばろう」で幕を閉じました。

## 「第34回教育芸術祭」を終えて

担当 前田 嘉代子(常任委員)

2023年、今年もコロナ感染対策をしっかりと、芸術祭が行われました。「展示の部」は、10月24日から10月29日まで、千葉県立美術館で、「演示の部」は10月27日県教育会館大ホールで開催されました。

書道で、飯高和子さん、水墨画で鶴岡康一、切り絵で林有常さん、演示の部では、鶴岡康一さん(詩吟)、山火わか子さん「月光の風」(モダンダンス)、高藤丈世さん「山内一豊出世の馬揃」(講談)。大塚洋子さんは足の怪我で、松苗禮子さんは体調不良ということで棄権されました。（4面に続く）

## (鶴岡康一さん)

- ・水墨画(禅画)「風過樹頭揺」
- ・詩吟「短歌『敷島の…』」(本居宣長)



## (高藤丈世さん)

- ・講談「山内一豊出世の馬揃」





(山火わか子さん) モダンダンス「月光の風」



伴奏者の名取信子さん(左)と山火さん(右)

(3面からの続き)

今年の夏はとりわけ暑かったと思います。朝早く起きて作品に取り組んだ苦労話など、お聞きしました。また昨年の作品の中から、茂原の林有常さんの切り絵が退職互助会の表紙に載るなど、うれしいお知らせがありました。

そして、平和だから出来るということをつくづくと感じた今年の芸術祭でした。来年も身体に気をつけてがんばってください。

### お知らせ

○3月・9月の「ワタシのミライ集会」(本号の2面に記事掲載)、「5・3 憲法集会」の参加者に「上限 2,000 円」の交通費補助をします。

○大雨等の「被害調査」の該当者は、同封したメモにご協力をお願いいたします。

## 岐路 2 2

船橋支部幹事 長澤淑夫

前田亜紀監督「No 選挙, No Life」をボレポレ東中野で観た。選挙取材を専門に行う珍種ジャーナリスト畠山理仁を撮ったドキュメンタリー映画。統一教会の伴走者安倍元首相が銃撃された 22 年の参院選の東京選挙区と沖縄知事選が取材対象だった。彼の方針は立候補者全員の意見を聞き記事を書くこと。この徹底により大手メディアには出てこない珍種候補の考えを知ることができる。この貴重な情報で、日本社会の多様性、深さ、トンデモなさを味わえた。選挙取材は他の原稿執筆を圧迫し、植木屋のようなアルバイトもしているという。しかし映画に出てくる家はキッチンとしていて、息子ふたりと自身も(最近は妻も)剣道をやっている様子から、充分生活は成り立っているようだ。

沖縄の選挙は選挙期間中もいたるところに候補者の幟がたち、支持者が勝手に演説するなど、堂々と選挙違反が罷り通っている。立候補を取りやめた塾講師も登場し、この違反を警察に告発するが、警察は取り合わない。これは米軍統治時代のアメリカ流選挙活動がそのまま定着した作法だと言う。

知らなかった。民主主義にとり選挙は重要なので関心と投票率を高めることが取材報道する理由とのことだが、そこには問題点もある。投票箱さえあれば民主主義というアメリカ流はイラクやアフガニスタンでは通じなかったし、また対話によって妥協点にたどり着くこと、デモや政治集会などで自由に意見表明できることも民主主義の定義に含まれると思うからである。でもいい映画だった。

(編集後記) 季節外れの暑さなど気候の変化が頻繁で、心身ともに不調になりがちな昨今ですが、元気な仲間たちの活動を伝える「高退教だより第 179 号」を送ります。(編集係 小鳥)

# 高退教だより

2023 年 12 月 22 日

No. 179

発行 千葉県高等学校退職教職員の会

千葉市中央区中央 4-13-10 千葉県高教組気付 Tel 043-227-1347

## 2023 年度 親睦研修旅行

### 千葉県北総地域の古墳を巡る旅 10月28日(土)実施

報告：香取支部 幹事 新井勝治 副幹事 沖浦裕



平 良文ゆかりの「樹林寺」にて

旭・銚子地区に続き香取地区を案内する機会を頂き感謝申し上げます。予想を上回る申し込み(18名)をいただきましたが、最終的に16名で実施いたしました。当初は、北総地帯から何を学んでいただけるのかと考え込んでしまいましたが、支部副幹事の沖浦裕さんから「古代・中世の北総の内海辺に勢力を張った、土豪の古墳と出土品を見ていただいて何かを感じ取ってもらおう」という案が出され、コース作りをしました。

10:20 出発。佐原の「水の駅・川の駅」研修室で「利根川以前の地殻変動」について講義を受けました。北総一帯は有史以前には何度も地殻変動を繰り返していました。

霞ヶ浦や北浦の水辺に立つと大海原に向かっていくような錯覚を起こします。原住民や大和から北上してきた支配者たちが躍動していた時代を想起させてくれます。

利根川に沿って東へ進むと、道路沿いに大塚山古墳の前方後円墳が地元保存会の努力によって今でも美しい姿を保っています。古墳の頂上に全員が登りました。次に小見川の城山公園では古墳の一基の内部を、懐中電灯を持って巡りました。昭和 30 年代、山頂に高校と中学校の建設が持ち上がって発掘が行われた際の出土品を小見川支所資料室で見ました。

昼食時、参加者の近況を含めた自己紹介の後、南部に広がる丘陵地帯を目指しました。

(2面につづく)

千退教・高退教共催

### 「汚染水放出問題から考える原発講演会」

講師 伴 英幸さん(原子力情報室共同代表)

2024 年 2 月 4 日(日)14 時より(受付 13 時 30 分)

教育会館(旧館)203 号室